

## 主な展示

時間が限られている場合は、以下の主な展示をお見逃しなく。

### \*ジョージ三世の像 (KING GEORGE'S STATUE)

この現実的な風景を歩き、アメリカ人がジョージ三世の乗馬像を引き倒した1776年のニューヨーク市の街をご体験ください。

### \*ボストンの自由の樹 (BOSTON'S LIBERTY TREE)

当博物館で最も人々の心を捉える場所のひとつ、実物大に複製されたボストンの自由の樹の枝と灯りの下にしばし立ち止まってみてください。

### \*独立ギャラリー (INDEPENDENCE GALLERY)

実体験型シアターで、大陸会議の代表者による情熱的なイギリスとの決別の討論を通じて、討論と決定が展開される様子をご覧ください。その後、トマス・ジェファークソンの言葉と独立宣言の本物の印刷物からのジョージ三世に対する苦情の一覧をお読みください。

### \*オナイダ部族国家ギャラリー (ONEIDA NATION GALLERY)

このギャラリーでは、オナイダ原住民族の人々の実物大の複製の中に立ち、イロコイ連邦と決別し、アメリカに同盟することになった激しい討論を聞き、当時を体験することができます。

### \*「ブランディワインの戦い」シアター (BATTLE OF BRANDYWINE THEATER)

ブランディワインの戦いで、イギリス軍の総勢力に立ち向かう最前線の恐怖と狂乱を経験することができます。この強烈なシアター体験では、戦争の物語が現実のように感じられます。

### \*私掠船に乗船する (BOARD A PRIVATEER SHIP)

私掠船の複製に乗船し、海上戦を体験することができます。すべての年齢の方にお楽しみいただけます。

### \*「南部での戦い」ギャラリー (THE WAR IN THE SOUTH GALLERY)

1776年、連邦会議が「万人は平等である」と宣言した時、何十万人ものアフリカ系アメリカ人が奴隷として生活していました。両軍は軍役の代償として自由を約束しましたが、奴隷となっていた多くのアフリカ系アメリカ人の決断はたやすいものでも明確に決定できるものでもありませんでした。

### \*ジョージ・ワシントンの戦時中のテント (WASHINGTON'S WAR TENT)

専用のシアターに設置されたワシントンのテントは、革命から存続する最も象徴的な物品のひとつです。ワシントンのリーダーシップとたぐいまれなこのテントを探索できるこのシアターでの独特な体験は、訪れる人に感動を与えます。

## 開館時間

毎日午前10時～午後5時

## 今すぐメンバーに！

博物館のメンバーには年間を通じて一般入館料が無料となり、博物館ストアとカフェの割引、特別イベント、講義およびプログラムへの招待状をお受取りいただけます。本日で入会いただきますと、本日の入館料をメンバーシップ料金のお支払いにあてることができます。

## プラザのハイライト

フィラデルフィアのジラード・エステートより借り受けた独立革命時代の大砲5台を展示する、独立宣言プラザにも是非お立ち寄りください。プラザの側壁のひとつの石灰石には、独立宣言の力強い言葉が刻まれています。

チェストナット通り（Chestnut Street）側の中庭では、くつろぎの空間でレリーフをお楽しみください。

ウィリアム・アンド・ローラ・バック革命中庭（William and Laura Buck Revolution Courtyard）にある最初のレリーフは、エマヌエル・ロイツェ作『デラウェア川を渡るワシントン』のレプリカです。

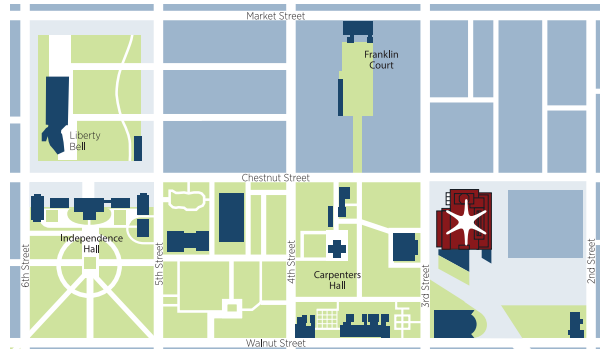
マージョリー・アンド・ルイス・カツツ・ライブラリー中庭（Marjorie and Lewis Katz Liberty Courtyard）にある2つ目のレリーフは、ジョン・トランブル作『アメリカ独立宣言』を題材にしたものです。

101 SOUTH THIRD STREET  
PHILADELPHIA, PA 19106

AMREVMUSEUM.ORG



@AmRevMuseum



# 博物館 ガイド&マップ



3RD & CHESTNUT STREETS, PHILADELPHIA

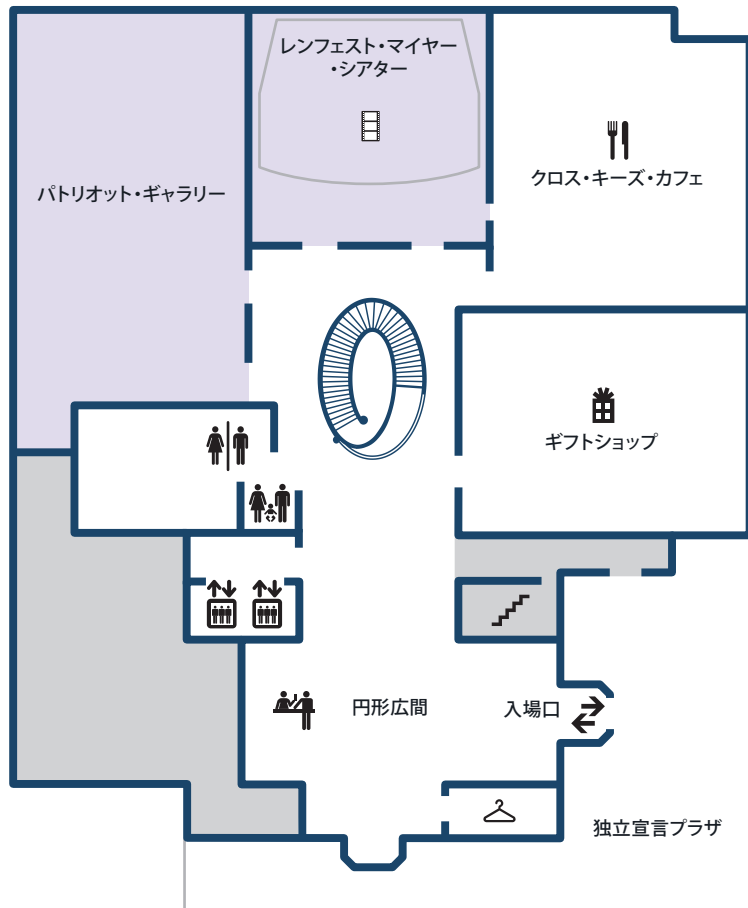
AMREVMUSEUM.ORG



@AmRevMuseum



## 1階



### クロス・キーズ・カフェ (CROSS KEYS CAFÉ)

1階にあるクロス・キーズ・カフェは、来館者に限らずどなたにもご利用いただけます。季節によっては屋外のお席でおくつろぎいただけます。植民地時代の料理と味付けを発想とするこのカフェでは、バラエティに富んだサラダ、サンドイッチ、その他のお料理を提供しています。

### 博物館ギフトショップ

展示物を鑑賞した後は、是非ミュージアムストアにもお立ち寄りください。このギフトショップでは、博物館のコレクションと展示に含まれる物品や工芸品をもとにした様々なアイテムを取り揃えています。

### ゲストサービス

当博物館は、どなたにも施設、展示およびプログラムにアクセスしていただけるよう努力しています。展示のビデオおよびオーディオにはすべて字幕または台本が用意されています。受付にて博物館内で無料でご利用いただける車椅子をご希望に応じて貸し出しております。

写真撮影の際のフラッシュの使用は禁じられています！

別途記載がない限り、物品や工芸品、展示物には触れないでください。

無料のWi-Fiをご利用いただけます。

ギャラリー内での飲食はお控えください。

## 2階



### レンフェスト・マイヤー・シアター (LENFEST MYER THEATER) で観る 革命

最初に、アメリカ独立革命の発端、出来事、今も続く伝統について説明するこの映画をご覧ください。最初、アメリカ独立革命の発端、出来事、今も続く伝統について説明するこの映画をご覧ください。

### 2階のシアター内の ジョージ・ワシントンの戦時中のテント

この感動的な映画で陸軍大元帥ワシントンのたぐいまれな人生の足取りを追い、彼が革命戦争中に使用した実物のテントの中に入ってみたいいかがでしょうか。

## メインギャラリー

### 革命派に (BECOMING REVOLUTIONARIES) (1760～1775年)

アメリカ独立革命につながる不満は、アメリカの独立戦争の発端となる「1発の銃声が世界を変えた」(shot heard 'round the world') その10年以上前に始まっていました。これらのギャラリーでは、生活に満足し、イギリス人であることを誇りとさえしていた入植者の多くが、反抗の根の広がりとともにどのように革命派になっていったかについて知ることができます。

### 暗黒の時代 (THE DARKEST HOUR) (1776～1778年)

分裂していた植民地が先の見えない戦争に突入するにつれ、自由の理想と独立、そしてヨーロッパで最強かつ最も規律の取れた軍隊を相手に入植者と共に戦争で戦うという現実との格闘が始まりました。革命戦争の暗黒の時代のアメリカをご体験ください。

### 革命戦争 (A REVOLUTIONARY WAR) (1778～1783年)

独立のための革命戦争を生き抜いた様々な人々の視点から、この戦争の最後の数年について探索します。奴隷だった人々は、アメリカ軍またはイギリス軍で自由を獲得できたのでしょうか？先住民族は新しいアメリカ国家の一員となったのでしょうか？勝利がもたらす明るい兆しの中で、革命派アメリカ人がこれらおよびその他の難問にどのように取り組んだかについて学んでみましょう。

### 新たな国家 (A NEW NATION) (1783～現在)

苦難の末のアメリカ合衆国の設立と共に、革命派は独立の獲得を成し遂げました。そして、彼らには生命、自由、幸福の追求という原則を基に国家を作り上げるという計り知れない使命が待っていました。